

● 大会運営に関する取り決め事項（自転車競技）

<開催要項>

1. 競技規則

本大会の競技規則は、下に記載する競技方法等による特別規定により実施する。競技規則に違反したチーム・選手は失格とする。

2. 競技方法 ※会場の都合により競技方法の変更をすることがあります。その際は参加申し込み校へ連絡いたします。

(1) 競技種類 男女の団体戦及び個人戦とする。

(2) 競技方法

陸上競技場のトラック1周（約430m）のタイムトライアルレース。1選手につき2回走り、いずれかのベストタイムを公式記録とする。第1スタート地点と第2スタート地点から各1名ずつ、スターターのピストルの合図で同時に発走し、所要時間を計測する。あらかじめ定めた発送順に全員が走り、1回目の終了後、各選手は反対側のスタート地点に移動し、同じ順番で2回目を走る。

①個人戦

出場者（男女別）全員の優劣により順位を決定し、1位から3位までにはメダル等を授与する。

②団体戦

3名以上出場の学校で、団体戦のエントリーをした学校を対象とする。各学校上位3名の個人記録合計タイムにより順位を決定し、上位チームにはメダル等を授与する。表彰は大会実施規程に基づく。

3. チーム構成

(1) 1チームは、引率責任者・監督・コーチ・マネージャー各1名、選手10名以内とする。

(2) 出場選手は、必ず引率責任者（当該校教員）によって引率され、引率責任者は、すべての行動に対して責任を負うものとする。

4. 使用自転車及び用具等

(1) 使用自転車は大会本部で用意したMTB（マウンテンバイク）に限る。

(2) ヘルメットと手袋（滑り止め付き軍手）は大会本部で貸与する。ヘルメットは必ず着用すること。

ヘルメット、手袋、プロテクター、サングラス等の装着品は各校や個人で用意したものを使用してもよい。

5. 組み合わせ抽選 個人戦及び団体戦は、提出された名簿をもとに本部にて、発走順番を決定する。

<大会特別規定>

1. 競技上の運営規定

(1) 選手は当日の指定時間迄に競技場に集合して受付を完了すること。不在の場合は失格とする。他競技との重複参加が理由で集合時間に合わない場合は大会本部と監督で協議して考慮する。あらかじめ決めた発走順は原則として変更しない。

(2) 選手は受付時に手渡すゼッケンを競技閉会式までの間、着用すること。

(3) 受付後、集合して競技開会式および注意事項の説明を行う。

(4) 競技開会式後、係員からMTBを支給し操作説明をする。参加選手は監督と共にMTBの点検をして、故障に注意すると共に、自分の体に合うように係員に調整してもらうこと。

(5) 選手は各自、スタート順に合わせてスタート地点近辺にてスタンバイし、順番を待つこと。

スタート地点に召集されたら係員の指示に従いスタートラインにタイヤを載せスタート合図を待つ。

(6) フライングの場合は、笛の合図で選手を止め、再走行を許可する。

(7) 競技中にチェーンが外れた場合は、再走行を許可する。

(8) 競技中に転倒して走行が不可能な場合は失格。ただし、転倒後起き上がり走行した場合は記録対象とする。1回目に転倒失格しても、2回目の参加は認めるが、ケガ等の場合の競技参加は大会本部の判断により、本人の意志に関係ないものとする。

(9) 危険防止とトラック保護の為に、急ブレーキは絶対にかけないこと。ゴールライン後は決められた走路に入り、徐々に減速すること。

(10) 発走の組み合わせや順番（スタート順）は大会本部にて作成する。選手の変更やスタート順の変更は原則として認めない。

(11) 監督の指導の下、事前に十分に準備運動をしておくこと。試走は競技コース外や指定区域内で行い、競技の妨げや事故のないように十分注意すること。

(12) 競技中に突発的に発生した事例については、競技担当者が各引率責任者を召集して、ルール等を再確認する。

(13) 2回走り終わった選手はMTB、ヘルメット、手袋をそれぞれ元の位置に返却し、競技閉会式の集合までは競技場内で待機する。

2. 審判等に関する事項

(1) 競技役員の分担はあらかじめ決め、競技運営の細則を配布する。

(2) 役員は競技開会式後に確認事項の打ち合わせを行い、所定の配置につく。

3. その他の注意事項

(1) 競技中の疾病・傷害などの応急処置は主催者側で行うが、その後の処置については責任を負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。

(2) 天候等による競技の変更や中止に関しては大会本部で判断する。

(3) 細部については参加エントリー受付後、出場校宛に文書で連絡をする。